

## 2023年度春季大会の報告

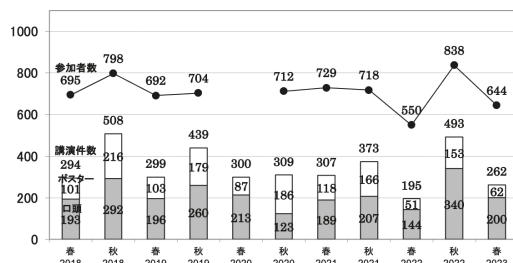
2023年度春季大会は、5月16日（火）～18日（木）はオンライン開催、19日（金）は東京大学安田講堂（文京区本郷7-3-1）から総会をオンライン配信、20日（土）は東京大学安田講堂での開催とウェブ会議システムによるオンライン配信にてそれぞれ実施した。

大会は、一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する7件の専門分科会で構成された。発表は、ウェブ会議システム（Zoom, 以下同様）によるオンライン口頭発表セッションと、バーチャルスペースツール（gather.town, 以下同様）によるポスター発表セッションで行われた。あわせて大会ウェブサイト上に発表資料を掲載し、ウェブサイト上で質疑応答を行う形式も講演者の任意で実施した。一般講演の発表件数は197件（内、口頭発表135件）、専門分科会は65件（すべて口頭発表）で計262件であった（第1図）。

気象学に興味を持つ高校生・中学生を対象としたジュニアセッションでは21件の講演があり、そのうち11件が5月16日（水）、10件が17日（木）夕方それぞれZoomにて各講演1分で概要紹介のあと、ブレイクアウトルームを用いて口頭発表を行った。各日の発表後は、gather.town上でジュニアセッション交流会が開催された。

5月20日（土）午前は、東京大学安田講堂において各賞の表彰式が行われ、ZoomとYouTubeを併用して同時配信された。竹見哲也氏に日本気象学会賞が、釜江陽一氏と坂崎貴俊氏に正野賞が、中川勝広氏・山内洋氏に岸保・立平賞がそれぞれ授与され、各賞受賞者による記念講演が行われた。同日午後はシンポジウム「夏季アジアモンスーン研究の多面的展開」が開催され、6件の基調講演および総合討論が行われた。

大会に前後して、研究会が3件開催された。5月9日（火）午後から第3回計算科学研究会が、Zoomにより開催された。13日（土）午後には第13回気象学史



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。2020年度秋季大会から2022年度春季大会のポスターの件数は、オンラインポスター講演のみを実施した講演の件数。2020年度春季大会は予稿集の発行により大会開催としたため、参加者数は未集計である。

研究会が、SOBIZGATES 会議室（東京都新宿区）にて開催され、Zoomにより同時配信された。15日（月）午後は、第55回メソ気象研究会が東京大学大気海洋研究所講堂（千葉県柏市）で開催され、Zoomにより同時配信された。

5月17日（水）昼には、gather.townを用いた女性会員の集いとWLB（ワークライフバランス）を考える会の合同企画イベントが開催された。ほかにも有志による交流イベントが16日（火）と17日（水）に開催された。

今大会の開催にあたり、10の企業・団体からご協賛ならびに展示やリクルート対応を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、大会実施にあたり、東京大学大学院理学系研究科、東京大学先端科学技術研究センター、国立極地研究所、東京都立大学、広報委員会、教育と普及委員会、人材育成・男女共同参画委員会の皆様にご協力を頂きました。ここに深く感謝の意を表します。

2023年5月 講演企画委員会